(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5201534号
(P5201534)
(45)発行日　平成25年6月5日(2013.6.5)　(24)登録日　平成25年2月22日(2013.2.22)

(51)Int.Cl.　F I
G03B 21/00 (2006.01)　G03B 21/00 D
H04N 5/225 (2006.01)　H04N 5/225 F

請求項の数 1　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2008-295566 (P2008-295566)
(22)出願日　平成20年11月19日 (2008.11.19)
(65)公開番号　特開2010-122434 (P2010-122434A)
(43)公開日　平成22年6月3日 (2010.6.3)
審査請求日　平成23年9月28日 (2011.9.28)

(73)特許権者　000004112
株式会社ニコン
東京都千代田区有楽町１丁目１２番１号
(74)代理人　100091557
弁理士　木内　修
(72)発明者　西澤　彰夫
東京都千代田区丸の内３丁目２番３号　株式会社ニコン内

審査官　佐竹　政彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】携帯機器及びカメラ

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
画像を投影面に向けて投影するプロジェクタと、
音を出力する音出力手段と、
前記プロジェクタによる画像の投影を開始させる投影指示手段と、
前記投影指示手段からの指示に応じて、前記音出力手段から報知音を出力させる制御手段と、
外部音を取り込む外部音入力手段とを
備え、
前記制御手段は、前記投影指示手段からの指示があると、前記音出力手段から前記報知音を出力させる前に前記外部音入力手段が外部音を取り込み、取り込まれた音圧に応じて、前記音出力手段から出力させる前記報知音の音圧のレベルを設定して、前記設定された音圧のレベルで前記報知音を出力し、前記投影指示手段からの指示があってから所定時間経過後、前記プロジェクタから前記画像を投影させることを特徴とする携帯機器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は携帯機器及びカメラに関する。
【背景技術】
【０００２】

近年、カメラのデジタル化が進み、画像を電気信号化することにより、撮影した画像をＬＣＤパネル上に表示させることができるようになった。

【０００３】

しかし、カメラの小型化が進み、ＬＣＤパネルの面積が小さくなったため、撮影した画像を多くの人が一緒に見ることが難しくなっている。

【０００４】

この不都合を解消するため、小型のカメラで取得した画像を拡大表示させるために、プロジェクタが組み込まれたカメラが提案されている（下記公報参照）。

【０００５】

このカメラによれば、従来投影できなかったような場所、例えば自動車内においても撮影した画像を拡大表示させることができる。

【特許文献１】特開平５－１３７０３９号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

例えば撮影した画像を自動車の後部座席の人がプロジェクタを使用して見る場合、プロジェクタから投影された画像がフロントガラスやバックミラー等に写し出され、運転者はフロントガラス等に写った画像が外部の景色か投影された画像であるかを瞬時に認識することができなくなるおそれがある。

【０００７】

この発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、その課題はプロジェクタの投影画像と外部の景色とを識別し易くすることができる携帯機器及び携帯機器を備えるカメラを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

上記課題を解決するため請求項１記載の発明は、画像を投影面に向けて投影するプロジェクタと、音を出力する音出力手段と、前記プロジェクタによる画像の投影を開始させる投影指示手段と、前記投影指示手段からの指示に応じて、前記音出力手段から報知音を出力させる制御手段と、外部音を取り込む外部音入力手段とを備え、前記制御手段は、前記投影指示手段からの指示があると、前記音出力手段から前記報知音を出力させる前に前記外部音入力手段が外部音を取り込み、取り込まれた音圧に応じて、前記音出力手段から出力させる前記報知音の音圧のレベルを設定して、前記設定された音圧のレベルで前記報知音を出力し、前記投影指示手段からの指示があってから所定時間経過後、前記プロジェクタから前記画像を投影させることを特徴とする。

【発明の効果】

【００１７】

この発明によれば、プロジェクタの投影画像と外部の景色とを識別し易くすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１８】

以下、この発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。

【００１９】

図４はこの発明の第１実施形態に係るカメラ１のブロック図である。

【００２０】

カメラ（携帯機器）１は、カメラ筐体１０と、このカメラ筐体１０内に設けられ、撮影レンズ１１を介して被写体像を取得する撮像部３０と、カメラ筐体１０内に設けられ、プロジェクタ窓１２から画像を含む光を投射するプロジェクタ部（プロジェクタ）２０と、バッテリ５１からの電力供給のオン・オフを行う電源ボタン１５と、プロジェクタ部２０を起動させるためのプロジェクタスイッチ（投影指示手段）１６と、制御プログラムに基づいて撮像部３０の撮影動作及びプロジェクタ部２０の投影動作を制御する制御回路（制

御手段）４０と、制御回路４０から出力された音声信号による音を出力するスピーカ（音出力手段）１７とを備えている。

【００２１】

撮像部３０はＣＣＤ等の撮像素子で取得された被写体像をアナログ/デジタル変換を経て、デジタルデータとして内蔵メモリ３１や図示しない各種の記録メディアに保存する。

【００２２】

制御回路４０は、電源ボタン１５が押されたとき、レンズドライバ５２を介して撮影レンズ１１を制御したり、ドライバ１８ｄを介してカメラ筐体１０の背面に配置された液晶（ＬＣＤ）表示部１８を制御したりして、カメラ１を撮影可能状態にする。

【００２３】

制御回路４０はプロジェクタスイッチ１６が押されたとき、バッテリ５１からプロジェクタ部２０に電力を供給する。また、制御回路４０は外部から供給される映像信号に基づいてプロジェクタ部２０の光源２１やドライバ２２ｄを介して液晶パネル（表示部）２２を制御することができる。なお、外部から供給される映像信号の取り込みは、例えばカメラ筐体１０にＵＳＢ端子５５を設けておき、制御回路４０の制御に基づいてＵＳＢメモリ信号を読み取ることで行われる。

【００２４】

なお、プロジェクタ部２０の起動方法としては、プロジェクタスイッチ１６を操作する以外に以下の方法がある。例えば、タイムアップしたか否かを制御回路４０で判定し、タイムアップしたときにプロジェクタ部２０を起動したり、プロジェクタスイッチ１６に対応するプロジェクタスイッチアイコンを液晶表示部１８（図３参照）に表示させ、アイコンを指等でタッチすることでプロジェクタ部２０を起動したり、ユーザの手元のキーパッド（図示せず）から送られたリモコン信号に基づいてプロジェクタ部２０を起動したりする方法である。

【００２５】

図１（ｂ）はこの発明の第１実施形態に係るカメラ１の正面図、図１（ａ）はその平面図、図２（ａ）、（ｂ）はプロジェクタ部２０を示す概念図である。図２（ａ）はシャッタ２４を用いて光を遮断する態様を示し、図２（ｂ）は黒画像表示可能な液晶パネル１２２を用いて光を遮断する態様を示す。

【００２６】

カメラ筐体１０の前面には、撮影レンズ１１とプロジェクタ窓１２とフラッシュ窓１３とが設けられている。カメラ筐体１０の上面には、シャッタボタン１４と電源ボタン１５とプロジェクタスイッチ１６とスピーカ１７とが設けられている。

【００２７】

電源ボタン１５が押されてバッテリ５１がオンの状態のとき、シャッタボタン１４が操作されると、撮影レンズ１１を介して被写体像がＣＣＤ等の撮像面上に結像されて撮影が行われる。ここで、被写体を照らす光量が少ないと、露光量が不足したり、手ブレが発生したりするので、フラッシュ窓１３から撮影時にフラッシュ光が照射される。

【００２８】

プロジェクタ部２０は、例えば高輝度の光を発光するＬＥＤ（発光色：白色）を用いた光源２１と、ＬＥＤ光源２１から放射される光を集光するための放物面鏡等の凹面鏡２３と、制御回路４０からの制御信号に応じて画像を生成するＴＦＴ液晶パネル等の液晶パネル２２と、プロジェクタ部２０が起動していないときに閉じているシャッタ２４と、液晶パネル２２で作られた画像を拡大する投影レンズ２６と、投影レンズ２６を透過した画像をプロジェクタ窓１２を介して投影面へ反射させる投射ミラー２５とを備える。なお、光源２１はＬＥＤを用いたものに限られず、水銀ランプ等でもよい。また、シャッタ２４を配置する位置は光源２１の光路上であれば、液晶パネル２２と投影レンズ２６との間に限られるものではない。更に、シャッタ２４に代えて絞りを用いてもよい。また、所望の画像が投影されるまでの間、例えば液晶パネル１２２に投射光量を減衰させる画像（例えば黒画像）を表示させるようにしてもよい。このようにすることでシャッタ２４を省略する

ことができる（図２（ｂ）参照）。
【００２９】
電源ボタン１５が押されてバッテリ５１がオンの状態のとき、プロジェクタスイッチ１６が押されると、プロジェクタ部２０が起動する。制御回路４０の指令に基づいてＬＥＤ光源２１から出射された光は凹面鏡２３で集光され、液晶パネル２２に入射する。液晶パネル２２は制御回路４０からの駆動信号に応じて画像を表示する。
【００３０】
液晶パネル２２に表示された画像は投影レンズ２６、投射ミラー２５、プロジェクタ窓１２を介してカメラ１０の前方の投射面（図示せず）に拡大投射される。このとき、画像に応じた音がアンプ１７ａによって増幅され、スピーカ１７から出力される。
【００３１】
液晶パネル２２としては透過型液晶パネルだけでなく反射型液晶パネルを用いることができる。透過型液晶表示素子パネルを用いた場合には光学系の光路長が反射型液晶パネル２２を用いた場合より短くなる。
【００３２】
図３はカメラ１の背面図である。
【００３３】
カメラ１０の背面には液晶表示部１８とメニューボタン１９ａと方向キー１９ｂ～１９ｆと再生ボタン１９ｇとが設けられている。
【００３４】
メニューボタン１９ａは複数のメニューの中から特定のメニュー（例えば操作音の設定）を実行するために使用されるボタンである。メニューボタン１９ａがオンのとき、方向キー（設定手段）１９ｂ～１９ｆを押すことによって例えば操作音の有無を設定する。方向キー１９ｂ～１９ｆは十字カーソルキーとして機能する。
【００３５】
図３の液晶表示部１８には、カメラ１０の起動時（電源ボタン１５を押したとき）に操作音をスピーカ１７から出力させ、撮影時（シャッタボタン１４を押したとき）に操作音をスピーカ１７から出力させない設定を行ったときの画面が表示されている。なお、図示しないが、プロジェクタ部２０を起動したときの操作音の出力の有無についても、メニューボタン１９ａ、方向キー１９ｂ～１９ｆで設定可能である。
【００３６】
次に、図５のフローチャート及び図１、２に基づいてプロジェクタ部２０の動作の一例を説明する。
【００３７】
図５はプロジェクタ部２０の動作を説明するフローチャートである。図５においてＳ１～Ｓ６はプロジェクタ起動処理の各ステップを示す。
【００３８】
まず、プロジェクタスイッチ１６が押されたか否かかが判定される（Ｓ１）。プロジェクタスイッチ１６が押されていないとき（ＮＯ）、ステップＳ１の処理を繰り返す。
【００３９】
プロジェクタスイッチ１６が押されたとき（ＹＥＳ）、スピーカ１７から音（報知音）を出力させる（Ｓ２）。
【００４０】
その後、タイマー（図示せず）をスタートさせる（Ｓ３）。
【００４１】
タイマーをスタートさせた後、所定時間（例えば３秒）経過したか否かを判定する（Ｓ４）。所定時間が経過しないとき（ＮＯ）、ステップＳ４の処理を繰り返す。
【００４２】
所定時間が経過したとき（ＹＥＳ）、バッテリ５１からプロジェクタ部２０に電力を供給し、光源２０を点灯させる（Ｓ５）。

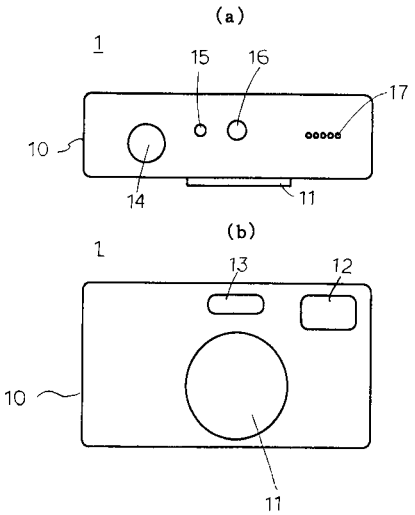
【００４３】
その後、シャッタ２４を開く（Ｓ６）。その結果、光源２０からの投射光によって液晶パネル２２に表示された画像は投影レンズ２６で拡大された後、投射ミラー２５で反射され、プロジェクタ窓１２を介して投影面に投影される。
【００４４】
この実施形態によれば、例えば自動車の後部座席の人がプロジェクタ部２０を使用して、画像がフロントガラス等に投影された場合、事前に画像が投影されることを報知する音が出力されるので、運転者はフロントガラス等に投影された画像と外部の景色とを識別することができる。その結果、携帯性、利便性を損なうことなくプロジェクタ部２０を安全に使用することができる
なお、この実施形態では所定時間経過した後に光源２０の点灯したが、タイマーをスタートさせた後に光源２０を点灯させ、所定時間経過後にシャッタ２４を開くようにしてもよい。また、シャッタ２４を省略し、所定時間経過後に光源２０を点灯させるようにしてもよい。更に、スピーカ１７から音を出力させるのは、タイマーをスタートさせる前でなく、タイマーをスタートさせた直後であってもよい。
【００４５】
図６はこの発明の第２実施形態に係るカメラ２０１の正面図であり、第１実施形態と共通する部分には同一符号を付してその説明を省略する。
【００４６】
この第２実施形態はカメラ筐体１０の前面にマイク（外部音入力手段）５４を設けた点で第１実施形態と相違する。
【００４７】
マイク５４でカメラ筐体１０の周囲の音（外部音）を取り込む。マイク５４には例えば音圧センサ（図示せず）が設けられ、マイク５４で取り込まれた音の音圧（Ｖ）が測定される。
【００４８】
図７はプロジェクタ部２０の動作を説明するフローチャートである。図７においてＳ１１～Ｓ２２はプロジェクタ起動処理の各ステップを示す。
【００４９】
まず、プロジェクタスイッチ１６が押されたか否かかが判定される（Ｓ１１）。プロジェクタスイッチ１６が押されていないとき（ＮＯ）、ステップＳ１１の処理を繰り返す。
【００５０】
プロジェクタスイッチ１６が押されたとき（ＹＥＳ）、タイマー（図示せず）をスタートさせる（Ｓ１２）。
【００５１】
その後、マイク５４で取り込まれた音の音圧（Ｖ）を測定する（Ｓ１３）。
【００５２】
音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）より大きいか否かを判定する（Ｓ１４）。
【００５３】
音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）を超えるとき（ＹＥＳ）、スピーカ１７から出力させる音圧のレベルを“大”に設定する（Ｓ１５）。
【００５４】
音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）以下のとき（ＮＯ）、音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）未満か否かを判定する（Ｓ１６）。
【００５５】
音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）未満のとき（ＹＥＳ）、スピーカ１７から出力させる音圧のレベルを“小”に設定する（Ｓ１７）。
【００５６】
音圧（Ｖ）が閾値（Ａ）に等しい場合（ＮＯ）、スピーカ１７から出力させる音圧のレベルを“中”に設定する（Ｓ１８）。

【００５７】
その後、上記のようにして設定された音圧のレベルの音をスピーカ１７から出力させる（Ｓ１９）。
【００５８】
次に、所定時間（例えば３秒）経過したか否かを判定する（Ｓ２０）。所定時間が経過しないとき（ＮＯ）、ステップＳ２０の処理を繰り返す。
【００５９】
所定時間が経過したとき（ＹＥＳ）、バッテリ５１からプロジェクタ部２０に電力を供給し、光源２０を点灯させる（Ｓ２０）。
【００６０】
その後、シャッタ２４を開く（Ｓ２１）。その結果、光源２０からの光によって液晶パネル２２に表示された画像は投影レンズ２６を透過した後、投射ミラー２５で反射され、プロジェクタ窓１２を介して投影面へ投影される。
【００６１】
この実施形態によれば、運転者はフロントガラス等に投影された画像と外部の景色とをより確実に識別することができる。
【００６２】
図８はこの発明の第３実施形態に係るカメラのプロジェクタ部２０の動作を説明するフローチャートである。図８においてＳ３１～Ｓ３８はプロジェクタ起動処理の各ステップを示す。
【００６３】
この第３実施形態は光センサ（光強度測定手段）５７によって得られた測定結果（ＬＶ値）に基づいて音を出力するか否かを決定するようにした点で第１実施形態と相違する。
【００６４】
まず、プロジェクタスイッチ１６が押されたか否かかが判定される（Ｓ３１）。プロジェクタスイッチ１６が押されていないとき（ＮＯ）、ステップＳ３１の処理を繰り返す。
【００６５】
プロジェクタスイッチ１６が押されたとき（ＹＥＳ）、タイマー（図示せず）をスタートさせる（Ｓ３２）。
【００６６】
その後、撮影レンズ１１を介して入射した光の強度測定（測光）を開始する（Ｓ３３）。
【００６７】
次に、ＬＶ値が１０より小さいか否かを判定する（Ｓ３４）。
【００６８】
ＬＶ値が１０未満のとき、音（報知音）を出力する（Ｓ３５）。ＬＶ値が１０以上のとき、音を出力しない。
【００６９】
その後、所定時間（例えば３秒）経過したか否かを判定する（Ｓ３６）。所定時間が経過しないとき（ＮＯ）、ステップＳ３６の処理を繰り返す。
【００７０】
所定時間が経過したとき（ＹＥＳ）、バッテリ５１からプロジェクタ部２０に電力を供給し、光源２０を点灯させる（Ｓ３７）。
【００７１】
その後、シャッタ２４を開く（Ｓ３８）。その結果、光源２０からの光によって液晶パネル２２に表示された画像は投影レンズ２６を透過した後、投射ミラー２５で反射され、プロジェクタ窓１２を介して投影面へ投影される。
【００７２】
なお、タイマーをスタートさせる前に測光を実施し、ＬＶ値が１０以上のとき、タイマーをスタートさせないようにしてもよい。

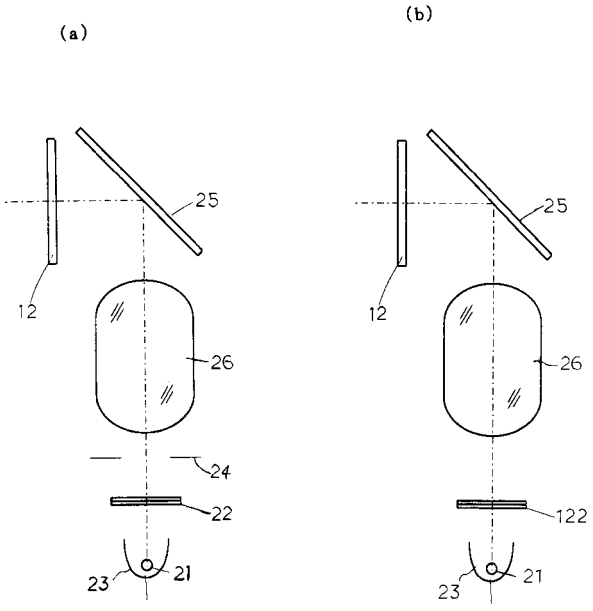
【００７３】
この実施形態によれば、第１実施形態と同様の効果を奏するとともに、測光結果に応じて音を出力するか否かが決定されるため、無意味な音の出力を避けることができる。
【００７４】
図９この発明の第４実施形態に係るカメラ４０１の平面図であり、第１実施形態と共通する部分には同一符号を付してその説明を省略する。
【００７５】
この第４実施形態はカメラ筐体１０の上面に照度センサ（照度測定手段）５６を設けた点で第１実施形態と相違する。照度センサ５６は例えば複数のフォトダイオードを有する照度センサＩＣで構成される。
【００７６】
照度センサ５６によってカメラ筐体１０の周囲の照度が測定される。
【００７７】
図１０はこの発明の第４実施形態に係るカメラのプロジェクタ部２０の動作を説明するフローチャートである。図１０においてＳ４１～Ｓ４８はプロジェクタ起動処理の各ステップを示す。
【００７８】
まず、プロジェクタスイッチ１６が押されたか否かかが判定される（Ｓ４１）。プロジェクタスイッチ１６が押されていないとき（ＮＯ）、ステップＳ４１の処理を繰り返す。
【００７９】
プロジェクタスイッチ１６が押されたとき（ＹＥＳ）、タイマー（図示せず）をスタートさせる（Ｓ４２）。
【００８０】
その後、照度センサ５６による照度測定を開始する（Ｓ４３）。
【００８１】
次に、照度が１００ｌｘ以下か否かを判定する（Ｓ４４）。
【００８２】
照度が１００ｌｘ以下のとき、音を出力する（Ｓ４５）。照度が１００ｌｘを超えるとき、音を出力しない。
【００８３】
その後、所定時間（例えば３秒）経過したか否かを判定する（Ｓ４６）。所定時間が経過しないとき（ＮＯ）、ステップＳ４６の処理を繰り返す。
【００８４】
所定時間が経過したとき（ＹＥＳ）、バッテリ５１からプロジェクタ部２０に電力を供給し、光源２０を点灯させる（Ｓ４７）。
【００８５】
その後、シャッタ２４を開く（Ｓ４８）。その結果、光源２０からの光によって液晶パネル２２に表示された画像は投影レンズ２６を透過した後、投射ミラー２５で反射され、プロジェクタ窓１２を介して投影面に投影される。
【００８６】
この実施形態によれば、第１実施形態と同様の効果を奏するとともに、照度測定結果に応じて音を出力するか否かが決定されるため、無意味な音の出力を避けることができる。
【００８７】
なお、測光ではカメラ１の周囲の照度を測定できない場合があるので、照度測定結果に応じて音を出力するか否かを決定するのが好ましい。
【図面の簡単な説明】
【００８８】
【図１】図１（ｂ）はこの発明の第１実施形態に係るカメラの正面図、図１（ａ）はその平面図である。
【図２】図２（ａ），（ｂ）はプロジェクタ部を示す概念図である。

【図３】図３はカメラの背面図である。
【図４】図４はこの発明の第１実施形態に係るカメラのブロック図である。
【図５】図５はプロジェクタ部の動作を説明するフローチャートである。
【図６】図６はこの発明の第２実施形態に係るカメラの正面図である。
【図７】図７はプロジェクタ部の動作を説明するフローチャートである。
【図８】図８はこの発明の第３実施形態に係るカメラのプロジェクタ部の動作を説明するフローチャートである。
【図９】図９この発明の第４実施形態に係るカメラの平面図である。
【図１０】図１０はこの発明の第４実施形態に係るカメラのプロジェクタ部の動作を説明するフローチャートである。
【符号の説明】
【００８９】
１：カメラ（携帯機器）、１６：プロジェクタスイッチ（投影指示手段）、１７：スピーカ（音出力手段）、２２：液晶パネル（表示部）、４０：制御回路（制御手段）、１９ｂ～１９ｆ：方向キー（設定手段）、２０：プロジェクタ部（プロジェクタ）、５４：マイク（外部音入力手段）、５６：照度センサ（照度測定手段）、５７：光センサ（光強度測定手段）。

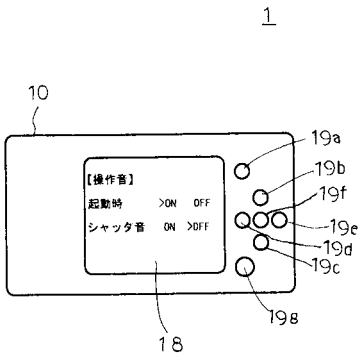
【図１】



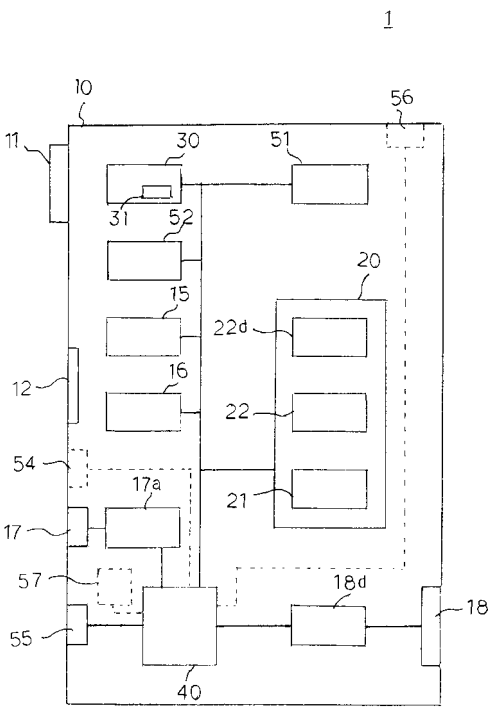
【図２】



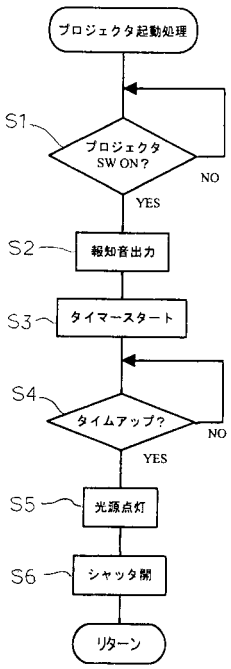
【図３】


1
10
19a
19b
19f
19e
19d
19c
19g
18
【操作音】
起動時 >ON OFF
シャッタ音 ON >OFF

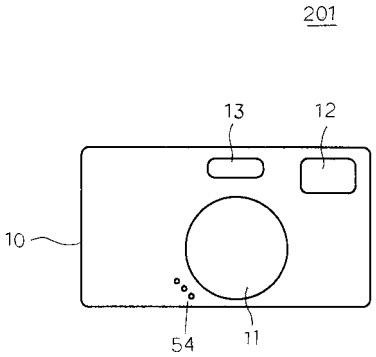
【図４】


1
10
56
11
30
51
31
52
20
15
22d
16
12
22
54
17a
21
17
57
18d
18
55
40

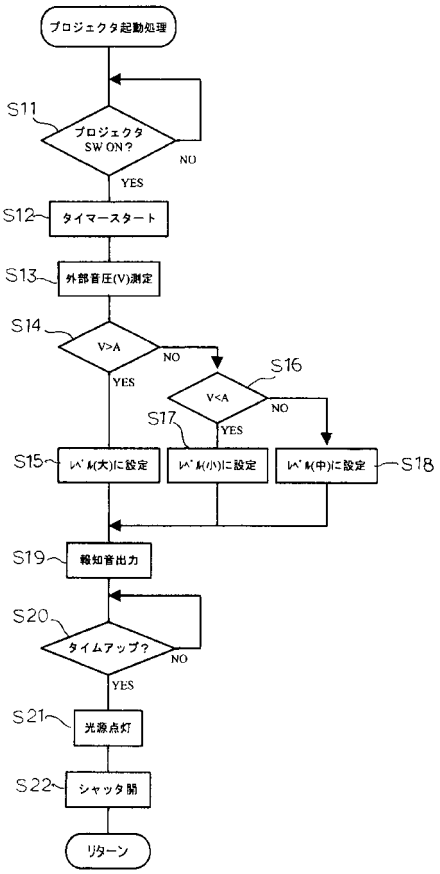
【図５】


プロジェクタ起動処理
S1
プロジェクタ SW ON?
NO
YES
S2
報知音出力
S3
タイマースタート
S4
タイムアップ?
NO
YES
S5
光源点灯
S6
シャッタ開
リターン

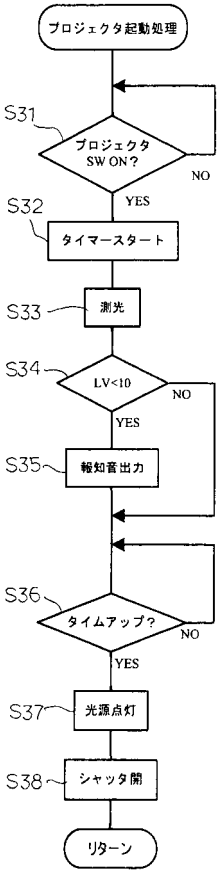
【図６】


201
13
12
10
54
11

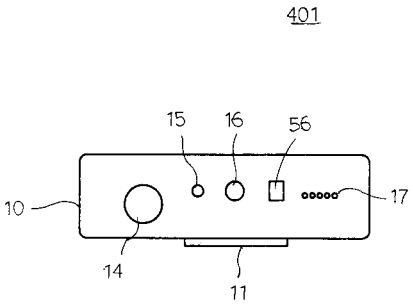
【図７】


プロジェクタ起動処理
S11
プロジェクタ SW ON?
NO
YES
S12
タイマースタート
S13
外部音圧(V)測定
S14
V>A
NO
YES
S16
V<A
NO
YES
S17
S15
ﾚﾍﾞﾙ(大)に設定
ﾚﾍﾞﾙ(小)に設定
ﾚﾍﾞﾙ(中)に設定
S18
S19
報知音出力
S20
タイムアップ?
NO
YES
S21
光源点灯
S22
シャッタ開
リターン

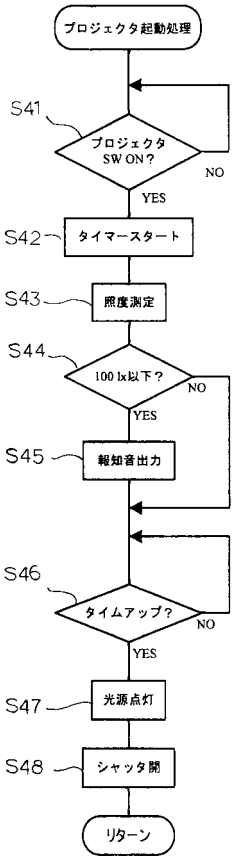
【図８】


プロジェクタ起動処理
S31
プロジェクタ SW ON?
NO
YES
S32
タイマースタート
S33
測光
S34
LV<10
NO
YES
S35
報知音出力
S36
タイムアップ?
NO
YES
S37
光源点灯
S38
シャッタ開
リターン

【図９】


401
15
16
56
10
17
14
11

【図１０】


プロジェクタ起動処理
S41
プロジェクタ SW ON?
NO
YES
S42
タイマースタート
S43
照度測定
S44
100 lx以下?
NO
YES
S45
報知音出力
S46
タイムアップ?
NO
YES
S47
光源点灯
S48
シャッタ開
リターン

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００７－０６５４０３（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－０５８０６３（ＪＰ，Ａ）
特開２００６－０５３２８８（ＪＰ，Ａ）
特開２００６－０９１０９１（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－０２９４８５（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－１７４６５１（ＪＰ，Ａ）
実開平０３－０８１９３３（ＪＰ，Ｕ）
特開２００９－２４４６３３（ＪＰ，Ａ）
国際公開第２００６／１２９５１５（ＷＯ，Ａ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｇ０３Ｂ　２１／００－２１／１０、２１／１３４－２１／３０